



2007年度 年次報告書



特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム (JIYD)



VISION

すべての青少年が、以下にあげる「5つの財産」をもって成長していくことのできる社会を目指します。

無条件に受け入れる大人が一人でもいる
眠り、遊び、学び、「居る」ことのできる安全で安心できる場所
心身ともに健康な生活習慣
人のためになることをする機会
社会人として自立できる技能、知識、価値観を身につける機会

MISSION

より多くの青少年に、よりよく役立つプログラムの拡大・強化・普及を効率的に進めることが、JIYDの使命です。

2006年より、事業規模の拡大に伴い「ライフスキル教育」の普及事業に注力する体制で臨んで参りましたが、2007年度は、まさに同事業が飛躍期へ移行したことを再確認した1年となりました。これも一重に皆様からの温かい継続的なご理解とご支援の賜物と、心より感謝申し上げます。



理事長 守随 武雄

私どものライフスキル教育普及事業では、アメリカで開発され世界的に評価の高い『ライオンズクエスト「思春期のライフスキル教育」プログラム』の日本への普及活動を行っておりますが、2007年度は、普及活動の柱であるワークショップと体験会を、開催数にして前年比の約2倍近い規模で全国的に開催し、多くの教育関係者、ライオンズクラブメンバーの方々にご参加いただきました。

現在、ライオンズクエストの全国的な普及展開は、多くの方々に支えられています。とりわけ、全国各地に活動拠点を有するライオンズクラブ様は、地域の青少年健全育成活動の一環として、ライオンズクエストを地元の学校に紹介するなど、様々な形で普及活動に取り組まれています。本報告書には、こうしたライオンズの方々の声の一部をご紹介させていただきました。未来の社会を築いていく青少年の健全育成に奉仕するメンバーの方々のお志と行動力には、志を同じくするものとして、深い感銘を受けます。更に、ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会様からのご支援は、2007年には4年目を迎え、社員の方々のボランティア参加も含め、東京都内でのワークショップ開催へご支援いただいております。また、日本財団様には、東京都内のワークショップ会場として、素晴らしい施設を無償にてご提供いただいております。

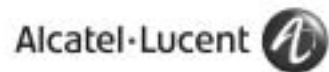
ライオンズクエストの普及活動の目的は、ライフスキル教育を一人でも多くの青少年に届けることにあります。そのために、ワークショップや体験会の開催を通じて、一人でも多くの教育関係者にライオンズクエストに触れていただき、実践していただきたいと考えております。本報告書には、実践者の声として、ライオンズクエストを全校規模で導入された埼玉県入間市立黒須中学校の轟木前校長にご寄稿いただきました。ライフスキルの学習を通じて、生徒に肯定的な変化が表れていることを実感されております。

2008年度は、前年度を超える規模での事業展開を見込んでおります。様々な形で普及活動に関わられている多くの方々のお志と行動力に遅れをとることなく、また、ライオンズクエストを手に青少年と日々向き合っておられる実践者の方々の支援すべく、一NPOとして身に余る重責に気を引き締めながら、更なる発展に向け邁進していく所存です。今後とも、皆様の継続的なご理解とご支援を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

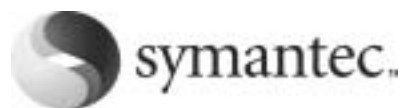
理事長 守随 武雄

支援者・協力者

助成：
アルカテル・ルーセント
財団法人森村豊明会
ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会
ライオンズクラブ国際財団



寄付：
京セラ株式会社
高知とさみずきライオンズクラブ
株式会社シマンテック
トヨタエルアンドエフ東京株式会社



協力：
日本財団
ライオンズクラブ
International Youth Foundation (IYF)
IYF Global Partner Network
Lions Quest International Network



事業協働

ライオンズクラブ国際協会

- < LCIF 四大交付金事業実施地域 > (2007年1月～12月)
- ・330-A/C 地区 東京 / 埼玉
- ・331-A/B 地区 北海道(道央) / 北海道(道北・道東)
- ・331-C 地区 北海道(道南)
- ・332-B 地区 岩手
- ・334-B 地区 岐阜・三重
- ・334-D 地区 富山・石川・福井
- ・335-A/B/D 地区 兵庫(東) / 大阪・和歌山 / 兵庫(西)
- ・335-C 地区 滋賀・京都・奈良
- ・336-A 地区 徳島・高知・香川・愛媛
- ・337-C/D 地区 佐賀・長崎 / 熊本・鹿児島・沖縄



Lions Questの著作権はライオンズクラブ国際財団に帰属します。

助成申請・報告
説明・体験会
相談対応

企画提案
助成申請
報告

助成金
寄付金

普及・広報・支援活動：
・ワークショップ
・体験会
・出張授業
・相談対応
・教材開発
・実施評価

学校(教員)
青少年活動指導者
NPO(スタッフ)

児童
生徒
青少年

ライフスキル教育
普及事業

青少年活動
支援事業
(休止中)

JIYD

JIYDは日本国内におけるLions Quest実施指定団体です。

会員 (2007年12月末日現在)

個人会員：140名
法人会員：5社
学校法人東京芸術学園音響芸術専門学校
キッコマン株式会社
株式会社スペースシャワーネットワーク
TDK株式会社
豊田三共株式会社



私たち、NPO法人 青少年育成支援フォーラム (JIYD) は、
青少年の健やかな成長に役立つ活動やプログラムを広げていく、
そのために青少年の育成に係わる大人や組織を支援しています。

兵庫県でのライオンズクエスト普及に携わって

宮崎正己

ライオンズクラブ国際協会 335-D 地区（兵庫西）地区ライオンズクエスト委員長



近畿圏のライオンズクエスト事業がスタートしたのは2004年7月からで、現在4年目を迎えております。私も2005年7月より335-D地区（兵庫県西部）のライオンズクエスト委員長を拝命したのですが、「ライオンズクエスト」の意味を理解するのに半年かかりました。私は教職員資格はありませんが、まず教職員と一緒にワークショップを受講し、ライオンズクエストの「教材」の素晴らしさにびっくりしました。次に兵庫県教育委員会・義務教育課に教材を持ち込み、研修現場で使用するよう要請し、ライオンズも支援すると言いつけたところ、半年後に県内より3名の先生がワークショップを受講されました。それをもとに検討された結果、兵庫県教育委員会より後援を得られたので、2006年後半より本格的に兵庫県内での普及活動に乗り出しました。30を超える市町村の教育委員会をまわってライオンズクエストの良さをPRし理解いただいた上で、その地域の先生方を対象に2時間の体験会を開催、その後2日間のワークショップを行うという流れで進めたところ、ここ1年間で大きな広がりを見せています。2007年には335-D地区で体験会、ワークショップをそれぞれ4回ずつ開催、ワークショップでは117名の先生方にご参加いただきました。

県によっては、ライオンズメンバーにライオンズクエストの意味を理解されなくて苦労されているところもありますが、335-D地区での体験会やワークショップは、すべて教育委員会と地元のライオンズメンバーの共催です。市町村レベルで教育委員会とライオンズクラブが連携することが、長期的に見て鍵になりますので、ライオンズメンバーへの説明や協力依頼も徹底しています。また、教育委員会、校長会等を通し、教育現場の教職員が実践力を発揮できるようにすることで、我々の奉仕が最大限に生きてまいります。ライオンズクラブが自分たちだけで何かをするのではなく、教育委員会などの行政や学校教育を担う先生方と連携して進めていくというのは、私にとってはとても面白いことです。こうした活動を通して今の子どもへの教育に奉仕できるのは、ライオンズメンバーとしてやりがいのあることだと感じています。今後も兵庫県内のより多くの先生や生徒にライオンズクエストを届けていけるよう努力したいと思います。

「ワークショップ終了後、参加者の生き生きとした顔を見て、やって良かった。又、やるぞ！」

片桐 誠治 331-A地区（北海道央）ライオンズクエスト委員長

「子供たちに伝えたい『大切なこと』」

それは我々大人にとっても『大切なこと』でした。」

清水 直喜 334-D（富山・石川・福井）地区管理委員長

「ライオンズクエストはこれまでで最高の奉仕活動でした。」

今後もライオンズライフの中心課題になりそうです。」

柳澤 一美 330-C地区（埼玉）元ライオンズクエスト委員長

「ライオンズクエストで、子どもに接するときに『問いかける』『待つ』ことを知り、人生観が180度変わった。」

足達 靖彦 335-C地区（滋賀・京都・奈良）ライオンズクエスト委員長（兼私立高校副校長）

「自分の思春期時代においてこのようなプログラムがあれば、考え方が広がったと思う。現在は子育ての中で、楽しみながらライフスキルを実践しています！」

外間 宏治 337-D地区（熊本・鹿児島・沖縄）3Rライオンズクエスト委員

「ライフスキル学習」で子どもが変わる

轟木 昭憲

埼玉県入間市立黒須中学校 前校長



<プロフィール>

とどろき・あきのり、1947年生まれ

埼玉県入間市立黒須中学校長（2005年4月～2008年3月）/ 埼玉県の公立中学校教員歴36年（県内中学校10校教員経験）/ 埼玉県中学校長会進路指導研究部長

黒須中学校は、2006年10月より『ライオンズクエスト』を導入し、ライフスキル学習を全校実施しています。本校では、「ライフスキル教育」とは呼ばず、「ライフスキル学習」と呼んでいます。「教育」というと、どうしても上から教え育てるという印象があり、子どもがライフスキルを学んで身につけていく、子どもを主体にして考えるという意味で、このように呼んでいます。

ライフスキル学習導入当初は、問題が起きたら傷口を手当てするというような対症療法的な指導（＝消極的な生徒指導）で、発展性がない状況からの出発でした。しかし、子どもの3年間を有意義なものにするため、子ども自身が自分で判断してより良い生活を目指し改善できるような力を身につけていく指導（＝積極的な生徒指導）に転換していきました。言い方を変えれば、子どもがライフスキルを学び、最終的には自分はやればできるんだという自信を身につけていくこととなります。また、子どもが「できるんだ」という実感を一つ二つ三つと積み上げていくことによって、自己肯定感が高まり、人間関係も良好になってきています。

昔からの教育スタイルである、上から下に機械的に教え込むという指導は、思春期の子どもにとっては難しい部分があり、ややもすると教師と生徒がぶつかり、対教師暴力が起こってしまう危険性もあります。本校では、教員が生徒の横に座って、一緒に考えながら指導していくことを生徒指導の根本に据えて展開しており、それが功を奏してきているように思います。じわじわとではありますが広がりを見せ、落ち着いた状況で安心して、生活や学習ができるようになってきました。

ライフスキル学習を始めて、確実に本校の子どもは変わってきています。10年前は、入間市内の中学校でも、生徒指導が大変な学校でありましたが、現在は、市内でベスト3に入ると、地域の人々が評価してくださっています。

ライフスキル学習導入にあたっては、学校だけの取り組みでは不十分な面がたくさんあります。授業公開などを通して、ライフスキル学習の良さをお知らせし、家庭・地域でのライフスキルの実践化を求めて連携していくことが必要です。しかし、まずは教員の理解からでしょう。いかに教員の理解を促し、子どもたちに活用していけるかです。その延長線上に、『ライオンズクエスト』があると考えています。

現在、保護者の信頼も少しずつ高まり、教員も多忙な中、意欲的に取り組んでいます。

今後の課題は、長い展望を含めた効果の検証や、健康教育・人権教育・キャリア教育と絡めて指導していくことと考えております。また、異学年の生徒と一緒に学ぶライフスキル学習も効果的ではないかと考えております。



ライフスキル教育普及事業

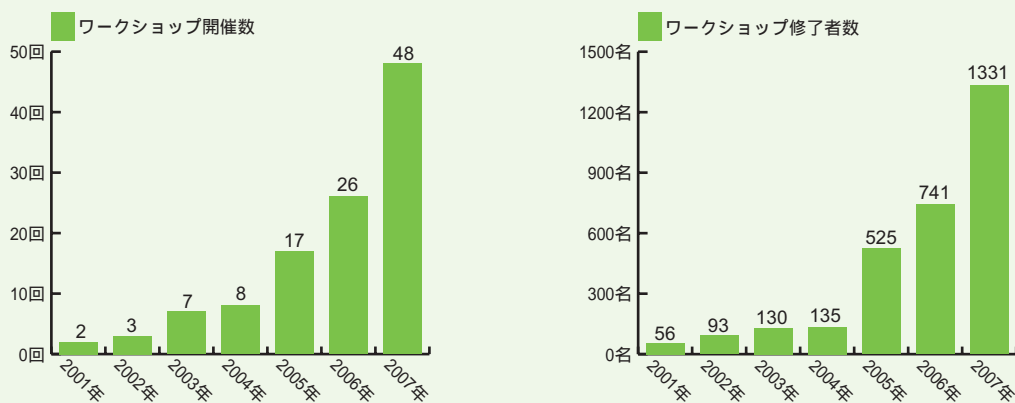
1999年にスタートしたライフスキル教育普及事業は、日本語版教材の開発やパイロット授業実施、ワークショップ講師養成などの基盤作りを行った6年間の助走期間を経て、2006年から飛躍期に入りました。飛躍期2年目の2007年度は活動地域がさらに全国に広がるとともに、パートナー団体であるライオンズクラブとの連携も充実しています。

普及状況

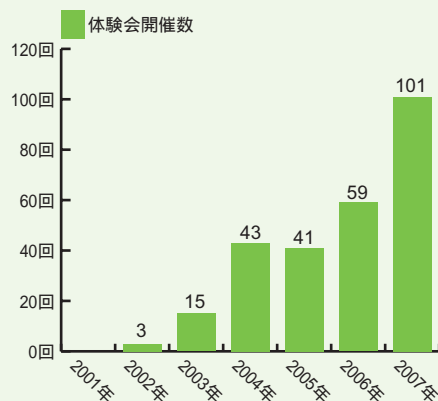
ライオンズクエストプログラムは、学校の先生が授業をすることで効果的に子どもに伝えられます。2007年度は昨年の二倍近い48回のワークショップを行い、1,331名の教育関係者が参加しました。全校でプログラムを実施する学校（モデル校）は17校となりました。

また、学校などがワークショップへの参加や学校での取り組みを検討するための材料として、体験会を行っています。2007年度は体験会の要望が急激に増え、教育関係者、ライオンズクラブメンバーへの体験会回数が101回、5,500人以上が参加しました。

ワークショップ開催数・修了者数の推移



体験会開催数の推移



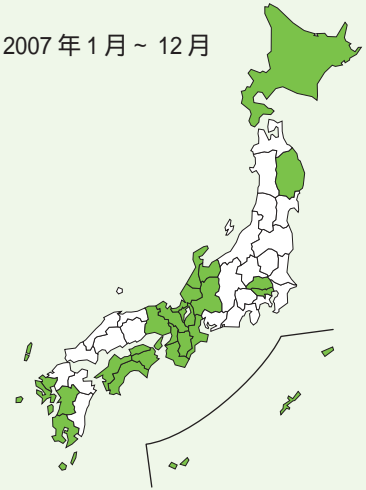
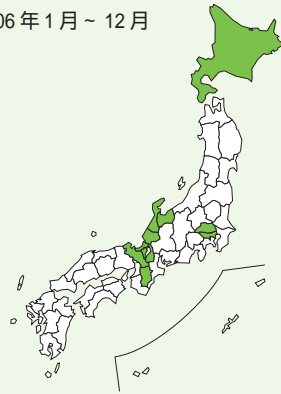
ワークショップ（2007年1月、石川県金沢市）

ライオンズクラブ地区()普及活動地域の推移

2007年1月～12月

1999年10月～
2005年12月

2006年1月～12月



ライオンズクラブの動き

急速に活動地域が広がっている背景には、ライオンズクラブの動きがあります。ライオンズクラブの国際本部は、全世界のライオンズに対して、青少年健全育成活動のうち最優先すべき活動がライオンズクエストプログラムであるとの方針を打ち出しました。こうした国際的な方針に共鳴して、日本のライオンズクラブも地区単位()で本格的にライオンズクエストの普及活動に取り組むところが増えています。2007年末には、全国34地区のうち15地区にのぼりました。またクラブの奉仕活動の一環としてライオンズクエストの普及活動を取り入れるクラブも増えてきました。

JIYDはこうした地区と連携して、ワークショップの開催、学校支援などを行っています。そのため本格的な活動に乗り出す地区が増えるにつれ、ワークショップや体験会回数、参加者数が増え、活動地域も全国に広がっています。

日本のライオンズクラブ組織は、47都道府県を34地区(1地区あたり1～4都道府県を含む)に分けて運営されています。ここで言う地区単位の活動とは、ライオンズクラブ国際財団(LCIF)の四大交付金事業による活動を指します。

その他の活動

- ・ フォローアップワークショップ： ワークショップ参加者対象のステップアップのための1日研修を2回開催しました。
- ・ モデル校支援活動： フォローアップ研修会を7校にて実施し、またワークショップ参加費を支援しました。
- ・ 教材開発： 指導案の補助教材(CD-ROM)作成し、配布を開始しました。
- ・ プログラム実施校評価： 2校のプログラム効果測定が終了、評価報告書が完成しました。
- ・ 認定講師養成： 新たに1名を養成し、ワークショップを行う認定講師が5名になりました。

下記団体より引き続きご支援いただきました

- ・ ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会様より、東京都内のワークショップ開催をご支援いただきました。
- ・ 財団法人森村豊明会様より、教材作製をご支援いただきました。
- ・ 日本財団様より、東京で開催した5回のワークショップの会場を無償でご提供いただきました。

収支計算書 自2007年1月1日 至2007年12月31日

大科目	中科目	予算額	決算額	差異
【収入の部】				
会費収入	個人法人会費収入	2,400,000	2,060,000	340,000
事業収入	ライフスキル教育普及事業	11,250,000	16,638,193	-5,388,193
	内) ワークショップ参加費収入	8,250,000	11,066,000	-2,816,000
	内) その他: 体験会謝礼等	3,000,000	5,572,193	-2,572,193
	小計	11,250,000	16,638,193	-5,388,193
助成金収入	ライフスキル教育普及事業	30,009,890	29,809,460	200,430
	内) アルカテル・ルーセント	6,237,000	5,951,825	285,175
	内) ライオンズクラブ国際財団	18,226,603	17,687,577	539,026
	内) ジョウカ・エンド・ジョウカ社会貢献委員会	2,200,000	2,200,000	-
	内) その他	3,346,287	3,970,058	-623,771
	小計	30,009,890	29,809,460	200,430
寄付金収入	使途指定寄付金・一般寄付金	880,000	1,123,677	-243,677
その他収入	受取利息・雑収入	10,000	495,915	-485,915
	当期収入合計	44,549,890	50,127,245	-5,577,355
【支出の部】				
事業費	ライフスキル教育普及事業	43,854,572	34,382,885	9,471,687
	内) ワークショップの開催	24,580,372	19,294,187	5,286,185
	内) 体験会の開催等	10,318,600	8,225,266	2,093,334
	内) 教材開発、認定講師養成等	8,955,600	6,863,432	2,092,168
	広報事業: 年報発行、HP 運営	550,000	546,065	3,935
	小計	44,404,572	34,928,950	9,475,622
一般管理費		4,200,000	4,208,223	-8,223
	当期支出合計	48,604,572	39,137,173	9,467,399
	当期収支差額	-4,054,682	10,990,072	-15,044,754
	前期繰越収支差額	33,715,246	33,715,246	-
	次期繰越収支差額	29,660,564	44,705,318	-15,044,754


貸借対照表 2007年12月31日現在

大科目	中科目	金額
【資産の部】		
流動資産	現金預金	36,595,076
	貯蔵品	2,360,980
	前払費用	202,744
	未収入金	6,581,637
	小計	45,740,437
固定資産	什器備品	86,154
	電話加入権	226,408
	敷金	300,000
	小計	612,562
	資産合計	46,352,999
【負債の部】		
流動負債	未払費用	232,469
	前受金	168,000
	未払源泉税	81,000
	小計	481,469
固定負債	長期未払金	553,650
	小計	553,650
	負債合計	1,035,119
【正味財産の部】		
正味財産		45,317,880
	内) 当期正味財産増加額	10,926,878
	負債及び正味財産合計	46,352,999

監査報告書

2008年1月31日

特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム
理事長 守随 武雄 殿

公認会計士 小坂 義人 

私は、特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラムの2007年1月1日から2007年12月31日までの事業年度の下記の計算書類について監査を行った。

1. 収支計算書、正味財産増減計算書及び貸借対照表
2. 財産目録

この監査に当たって、私は一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠し、通常実施すべき監査手続を実施した。

監査の結果、法人の採用する会計処理の原則及び手続は、一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準及び定款（寄付行為）に準拠し、かつ、前事業年度と同一の基準に従って継続して適用されており、また、計算書類の表示方法は、一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているものと認められた。

よって、私は上記の計算書類が特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラムの2007年1月1日から2007年12月31日までの事業年度の収支及び正味財産増減の状況並びに同事業年度末日現在の財産の状態を適正に表示しているものと認める。

特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラムと私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

ライフスキル教育普及事業

2008 年度もライフスキル教育普及事業は更なる飛躍を続けていきます。活動地域は前年から更に広がり、ワークショップや体験会の開催数も増えています。多くのプログラム実践者が生まれ、子どもたちにライフスキル教育を届ける多くの機会が生まれています。

今、求められていること

中教審は「生きる力」が子どもたちに必要であると指摘し、「総合的な学習の時間」で実施するのに適当なものとして、ライフスキル教育への関心が高まっています。ライオンズクエストは、系統的に組み立てられ、日常生活にも密着したかたちで、子どもたちに必要かつ有効な " ライフスキル = 生きる力 " を教えるプログラムです。

文部科学省による学力調査の結果は、ライフスキルに関わっている点が多く、ライフスキル教育の重要性と必要性を裏付けるものであると言えます。自尊心や規範意識の高い子どもは学力が身につく、ライフスキルが学力を身につける上で大切である、ということがわかります。学力調査の結果で挙げられている点は、ライオンズクエストに含まれている授業と照らし合わせると、話し方・聞き方・目標設定・振り返り・ルール・家族・相手の気持ちなど、多くの部分で重なっています。

社会の変化や要請に対応するために必要な力

次代を担う子どもたちに必要な「生きる力」

子どもたちに必要とされる「生きる力」は学校教育のみならず、実社会における多様な体験等と相まって伸長していくもの。子どもたちが学校の内外で、その発達段階に応じて「生きる力」を育むことができるような環境づくりが求められている。

成人に必要な変化の激しい時代を生き抜くために必要な力

成人についても、変化の激しい社会を、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力を身に付けることができるよう、生涯にわたって学習を継続でき、その成果を適切に生かせる環境づくりが求められている。

(平成 20 年 2 月 19 日中央教育審議会新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について
～ 知の循環型社会の構築を目指して～ (答申の概要) より)

平成19年10月 平成19年度全国学力・学習状況調査 (調査結果のポイントより抜粋)

家の人と学校での出来事について話をする児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。
人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。
学校のきまり・規則を守っている児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。
児童生徒が礼儀正しいと思っている学校の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。



ワークショップ(2008年2月、福井県)

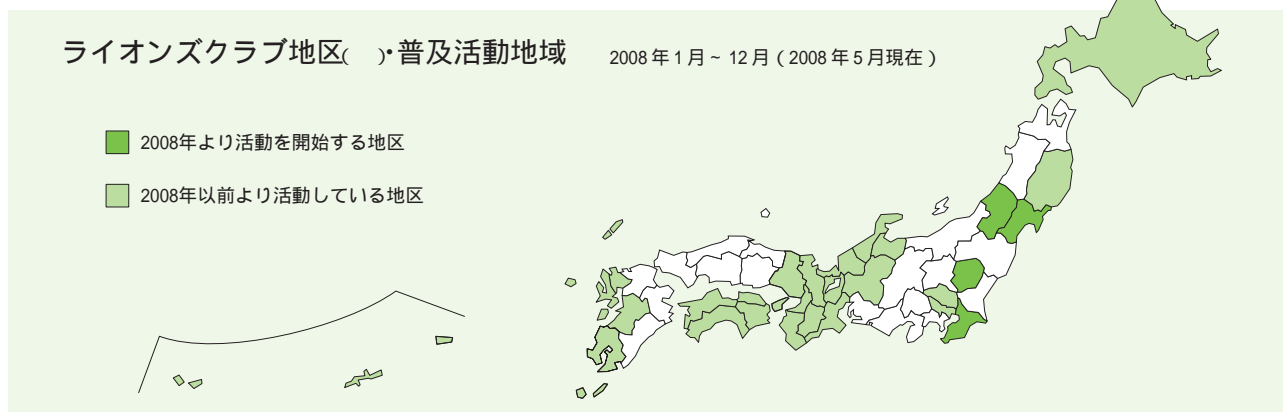
普及展開

2008年度は、年間約60回のワークショップ開催を予定しています。北海道から沖縄まで、全国各地で開催され、約1,400名の方々の受講を見込んでいます。また、全校でプログラムを実施する学校(モデル校)は、20校を超える見込みです。

プログラムを知っていただく機会である体験会は、2007年度に引き続き2008年度も100回以上開催する見込みです。教育関係者のみならず、保護者の方々や行政、ライオンズメンバーなど、様々なお立場の多くの方々にプログラムを紹介していきます。

ライオンズクラブの地区単位()での取り組みは、2008年度も増加する見込みです。全国34地区のうち、過半数の19地区が普及活動を展開していきます。地域に根ざした活動を行う個々のライオンズクラブも活発にアクティビティー(活動)を行っています。

日本のライオンズクラブ組織は、47都道府県を34地区(1地区あたり1~4都道府県を含む)に分けて運営されています。ここで言う地区単位の活動とは、ライオンズクラブ国際財団(LCIF)の四大交付金事業による活動を指します。



その他の活動

- ・ フォローアップワークショップ：ワークショップ参加者対象のステップアップのための1日研修を2回開催します。
- ・ モデル校支援活動：フォローアップ研修会を随時実施し、またワークショップ参加費を支援します。
- ・ 教材開発：教材改訂と改訂版教材の配布を開始します。
- ・ 認定講師養成：ワークショップ開催数の増加に対応するため、ワークショップを行える認定講師を数名養成する予定です。また、認定講師を指導できる上級講師も併せて養成する予定です。

2007年度会員

(2007年12月末日現在)

法人会員

学校法人東京芸術学園音響芸術専門学校
キッコーマン株式会社
豊田三共株式会社

株式会社スペースシャワーネットワーク
TDK株式会社
(敬称略、五十音順)

個人会員

会田 隆雄	飯田 助知	伊勢戸 敏信	井村 昭弥	植松 健
大久保 良平	喜志 房雄	北山 宏	佐渡 弘	島田 佳宣
少徳 敬雄	鈴木 宏	高氏 真弓	田中 祥雄	寺田 慶子
豊田 章一郎	仲宗根 宗督	成瀬 健生	二田水 功	長谷川 一弘
前川 一郎	松井 義之	松本 保孝	水谷 隆夫	百田 勝彦
森 信之	山田 礼子	湯浅 清文	和智 武夫	他 111 名

(敬称略、五十音順)

2007年度寄付者

(2007年12月末日現在)

法人寄付者

京セラ株式会社
トヨタエルアンドエフ東京株式会社

高知とさみずきライオンズクラブ

株式会社シマンテック
(敬称略、五十音順)

個人寄付者

安 王錫 金原 厚 他 24 名 (敬称略、五十音順)

私たちの活動をご支援ください

青少年育成支援フォーラムでは、一人でも多くの青少年にライフスキルを届けるために、法人・個人、多くの皆さまからのご支援をお願いしています。

【会員の募集】：年会費：個人・5千円(1口)～/法人・20万円(1口)～

1年単位(1月～12月期)の年会費制です(入会金無し)。会費は法人・事業を維持・発展していくための経費等に充当されます。会員の方へは年次報告書を通じて活動のご報告をします。

【寄付のお願い】：会員入会の他に、寄付によるご支援も受付けています。ご寄付は法人・事業を維持・発展していくための経費等に充当されます。また、用途をライオンズクエスト普及事業に限定したご寄付も受付けています。寄付金には決まった金額単位はありません。

【会員入会、寄付のお申込み方法】：会員入会・寄付のお申込みをご希望の場合は、以下までお問合せください。また、ホームページからもお申込み・お問合せいただけます。

特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム(JIYD) 担当：工藤・馬淵

Tel. 03-3440-3373 / Fax. 03-3440-4447 / E-mail: info@jiyd.org

理事会

(2008年4月1日現在)

理事長	守隨 武雄	松下電器産業株式会社客員
副理事長	中雄 政幸	事務局長兼務(L)
理事	栗田 収司	日本ビクター株式会社客員
	並木 茂夫	元公立中学校校長
	野村 彰男	前国連広報センター所長
	藤本 厚子	元幼稚園教諭
	見上 良也	学校法人東京芸術学園音響芸術専門学校理事長(PCC)
監事	満島 章	前財団法人こども未来財団監事
	渡辺 真一	公認会計士(PDG)

L = ライオンズクラブ国際協会メンバー
PCC = ライオンズクラブ国際協会元ガバナー協議会議長
PDG = ライオンズクラブ国際協会元地区ガバナー

事務局

(2008年4月1日現在)

中雄 政幸(事務局長)
佐渡 涼子(ライオンズクエスト認定講師)
鈴木 美佳
田川 薫
馬淵 英晃
工藤 由紀子(P)
佐久間 香(P)
福田 真由美(P)

(P = パートスタッフ)

発行者	中雄 政幸
発行所	特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム
発行日	2008年5月30日
印刷	株式会社東京印刷サービス



JIYD

特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム (JIYD)

〒108-0074 東京都港区高輪 4-10-63-302
TEL. 03-3440-3373 / 03-3440-4486
FAX. 03-3440-4447
E-Mail. info@jiyd.org
URL. www.jiyd.org